

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700244		
法人名	医療法人 緑光会 野宮病院		
事業所名	認知症高齢者グループホーム ふれ愛の家		
所在地	北海道岩見沢市5条東18丁目65番地		
自己評価作成日	令和3年1月19日	評価結果市町村受理日	令和3年3月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvoNoCd=0175700244-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和3年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年は外出支援に力を入れ、花見・水族館・ドライブ等を楽しんだが、今年はコロナウイルスにより外出がなかなかできず、面会も制限される中、ホーム内で外出したかのような行事(花見・紅葉狩りなど)を増やしたり、ミニ運動会を開き、体を動かすことでストレス解消できるように努めました。また、うどん作りやお寿司屋さんなど、いつもとは違う食事を提供し、楽しい時間を過ごしました

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は母体法人野宮病院に隣接した開設18年目を迎えています。PDCAサイクルを用い、ヒヤリハット報告を大切にすることでプロジェクトの設置等、諸々の仕組み作りやマネジメントを担い書式整備や物品購入などでも動きやすい環境を調整しています。介護計画は詳細に立案され個別の日課計画表により職員の実践に繋がっています。歩き回りや発語が不足の方へは職員が必ず声をかける事によって笑う事も多く落ち着いた生活となった事例や昔の記憶を取り戻したかのように家事作業が可能になった事例があるなど介護支援の効果が窺われます。コロナ禍での自粛の中、施設内で戸外の雰囲気を感じ出す趣向や行事を盛り上げる演出も職員のアイデア豊かに行われ、作業療法的なレクや体操など楽しみ事を交え実施されています。食事への関心を引き起こす数々の工夫や五感刺激にもなるメニューなど食事を楽しむことのできる支援が誠に多彩であり、家族の評価も高い状況です。医療法人としての医療に係る支援力は元より、暮らしの主体者として利用者の喜びや幸福感、生きる力を事業所全体で支えている事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
				項目
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのかわりには未だ少ないが、消防訓練に参加したり、地域の会議に参加したりと、少しずつ実践に繋がられるよう取り組んでいる	1人間統合・2自然統合・3地域統合の理念を其々具体化した文言を添え分かりやすく標榜しています。理念は重要事項説明書に明示し、事業所内の要所に掲示しています。新入職員への意識づけに取り組む考えを示しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で外出や保育園児による訪問が中止となってしまう取り組めていない。また、認知症カフェを開催し地域の方々も少しずつ参加し、繋がりを持てるようになってきたが、コロナウイルスの影響で現在中止となっている	今年度は様々な地域交流が中止となっています。昨年度の実施状況ですが、保育園児が事業所に訪れて歌の披露や握手で触れ合ったり、事業所の「オーダーミスしてもごめんねカフェ」(認知症カフェ)、フラワーアレンジメントに地域の方々が集っています。敬老会に劇団の方の慰問がありました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政・家族・町内会に対しては運営推進会議時に施設運営状況や行事などの報告をしている。また、認知症カフェにおいて認知症の方と触れ合うことで理解していただけることもある		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止策の一環で、運営推進会議は書面会議として行い、その議事録をご家族、行政、地域の方々、法人関係者へ配布している	令和2年5月より書面会議で開催し議事録を家族や関係者へ送付しています。身体拘束委員会会議内容やインシデント・アクシデント等を報告しています。通常開催時は当事者である利用者の参加態勢に尽力し、家族の出席率も高い状況です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やカフェなどの行事に参加いただいで施設の状況を伝えたり、相談させて頂いていたが、新型コロナウイルス感染防止のために直接お会いする機会が中断している	新型コロナウイルス感染症拡大予防対策や実地指導等で市の担当者から意見や助言を仰いだり、指導を得るなどして運営に活かしています。今年度は自粛ですが事業所夏祭りに高齢介護課職員や地域包括支援センター長が訪れ実際のサービスをモニターしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3か月毎に開催して身体拘束の有無、拘束にあたる行為がある場合は、定められた基準を満たしているか否かを検証して、その結果を全職員へ周知している。また、身体拘束に係る研修会(今年度は施設内研修会)を通じて全ての職員が正しく理解できるように努め、身体拘束の無いケアに取り組んでいる	身体拘束の最適化のための指針を定め、3ヶ月に1度身体拘束廃止委員会を開催しています。委員会ではテーマや事例の検討、スピーチ・ドラッグ・フィジカルロックについても確認しています。これらに係る内部研修は年2回開催され、全職員が参加し学べる仕組みとなっています。玄関は夜間帯のみ施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修(今年度はリモート研修に参加)で学んだことを施設内で水平展開しながら、他施設での取り組みを理解したり、日々のケアに対して適切か否かの見直しを行った。また、研修で実習したことをユニット会議等でも同じように実施するなど、虐待行為が無いように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市が主催した研修会に参加し、その内容を施設内で水平展開して学ぶことができた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書・重要事項説明書・各種同意書にて十分な説明を行い、不明点等の問合せは随時受け付けて補足説明しながら理解と納得頂けるように対応している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時、電話連絡時などにおいて、入居者ご家族等からの意見や提案があった場合、また、日々の介護業務においてご本人からの訴えなどがあった場合は、その内容及び対応について協議した結果を運営推進会議(書面会議)議事録で報告する体制ができています。また、個別の対応は適時対策結果を当事者へ連絡している	利用者、家族からの意見等に関する対応方針の仕組みが構築されています。現在は家族面会が自粛されていますので、電話や書面での情報交換や要望の聞き取りが主となっています。介護計画作成時に利用者の情報発信や年始に職員による個別のお手紙、行事後に家族アンケートを行っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日々の業務の中で出た職員からの意見や提案はリーダー会議で協議され、その結果を職員へ周知している	法人の相談役が必要時等に職員との個別面談を実施しています。左記の自己評価の他、新人職員から運営に関する意見を聴取する機会やその仕組みについても検討されるなど、多様な意見を取り入れ、やりがいや働きやすい環境の調整に臨んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・昇格の基準はキャリアパス要件が公開されているので目標は明確になっている。賃金は労働条件通知書に詳細が記載されている。就業規則は何時でも閲覧できるように備え付けられている。残業は少なく、休日も確保されているが、休憩が充分取れる職場環境ではない。また、職員数は人員配置基準を充足しているが、入居者の身体的な衰え、職員の高齢化もあって実態としては厳しい(特に夜間業務がきつい)職場環境にある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や講習は適時案内があり、積極的に参加するように促されている。コロナ禍で外部研修が中止される中、法人職員が講師となって施設内研修が行われた		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部研修や講習会への参加が良い契機となるが、コロナ禍で実施できていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の施設見学を行い、面談を通じてご本人、ご家族に話を伺い、納得して頂いた上で安心して入居いただけるように努めている(コロナ禍で実施できていない)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に入居に至る経緯、不安な事、施設に希望することなどは可能な限り確認するように努めている。施設で生活している様子を写真等を交えて通知したり、ご家族を招いて一緒にイベントに参加いただいたりしながら、良好な関係を構築できるように努めている(コロナ禍で中断している)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経営母体(精神科病院)のソーシャルワーカーと連携しながら情報交換を行い、施設でのサービスを中心としながらも、必要に応じて病院(入院)の支援が受けられるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることを見極め、食事作りや掃除などを一緒にしながら、安心した生活、支え合いができる関係作りに努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には他科受診時の同帯、施設イベントへの参加など様々な場面で協力いただきながら、施設が提供するサービスと一体になって入居者の安心した暮らしを確保できるように努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止策の一環で、面会や外出支援ができないため、寂しい想いをさせているが、ご家族からの電話連絡で楽しそうに話している姿は見受けられた	今年度は感染症対策で自粛となっておりますが、例年は以前近所であった友人や親しくしている農家のご夫婦の訪問があったり、一時帰宅や外泊など家族宅で過ごす利用者がいます。元鉄道マンであった利用者が職員と一緒に三笠鉄道村へドライブで出かける事もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活での会話、レク、家事を通じて、いろいろな方とお話できるような機会を多く作り、関係性を深められるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを利用していた方の絵はがきを見つけた。既に契約は終了していたが、一言添えて送付したところお礼のために施設に来所して頂いたご家族がありました		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から話を伺ったり、レク中に思いを聞き出したり、生活の中での感情や表情、行動から思いをくみ取り、その方に合った暮らしの意向に沿えるよう努めている	利用者との日頃の会話等から思いを聞き取ったり、快・不快等の表情からも見極め思いや意向、希望の把握に努めています。得られた内容は所見欄に記入してモニタリングに反映させ、生活の質の情報等にてアセスメントされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に「私の暮らしの情報シート」に記入いただき、これまでの生活状況を聞き、入居後なるべく同じような環境で生活頂けるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課計画表を作成することで一人一人の状況把握をするよう努めている。毎朝にバイタル測定を行い体調の把握をしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の話を傾聴して毎月の担当者会議や日々気付いた事はスタッフ間で共有し意見交換することで望む暮らしに近づけるような介護計画を作成している	利用者の担当職員がモニタリングを行い、チェックポイントシートによる課題の抽出や家族や本人の意向も踏まえ、毎月の担当者会議で新たな介護計画に向けた検討がなされています。利用者個別の日課計画表には計画内容が示され実践に活かされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、支援経過記録、担当者会議録、送りノート等への記入や、付箋紙やメモを活用しながら、情報を共有し実践や介護計画の見直しに反映できるよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	院内保育園児の来所やボランティアを招聘して歌などで楽しんで頂いたこともあったが、現状はコロナ禍で実施できていない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でボランティアなどの行事が中止されているが、終息後はご本人が行きたい所や、買い物、地域行事等に参加してゆきたい		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体の医師(主治医)による受診、他科受診の際はご家族にご協力頂いているが、基本的には入居前のかかりつけ医の関係を継続している	運営法人である隣接の野宮病院が協力医療機関であり、内科は通院受診、精神科・皮膚科は往診の態勢を整備し、週1回の訪問看護では健康観察はもとより、職員からも日々の状態を聞き取りし、適切な医療に繋げられるようにしています。個別の支援経過記録に受診内容を記しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	経営母体の看護師が毎週来所される際に、日々の状態や相談したことへのアドバイスを頂いている。一人一人とお話されるのでご本人も安心された表情をみせている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	経営母体の病院や他病院への入院時はソーシャルワーカーと密な情報交換を、フェイスシートや直接電話で情報提供しながらスムーズに判り易い情報提供に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	主治医よりご家族へ説明を行い、スタッフ同席のもとで今後について話し合いながら決めている。また、どのようなサポートを行えば良いのかをチームで話し合っている	利用契約時に看取りに関する指針と疾病の悪化時の対応と人生の最終段階における医療処置についての事前確認書を基に説明しています。重度化等に向かいつつある場合は、関係者間で話し合い今後の対応方針への合意形成を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご本人の急変や事故発生時は主治医、看護師に連絡することで夜間でも直ぐに対応可能な体制にある		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルが備え付けてあり、年2回の避難訓練(夜間想定、大地震想定、停電想定など)を通じながら避難方法を習得している。また、AEDの使い方、心臓マッサージの方法についても勉強会を行った。災害時の物資(飲料水・食料・簡易トイレ)の備蓄も行っている	令和元年11月夜間想定火災避難訓練を消防署の指導の下に実施し、コロナ禍にある今年度は秋に防火安全対策・福祉施設火災の初期対応の映像ビデオを視聴し今後の課題等を話し合い書面化されています。令和3年2月中に通報等の自主訓練を行う予定となっています。災害に備えた備蓄品の整備や見直しが行われています。	臨場時における利用者の様々な居場所を想定した対応方法の検討と冬期間における災害に備えた備品等の準備について検討する意向ですので、その実現に期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前の呼び方や言葉使いは職員間でダメ出ししながら注意喚起してかなり意識しながら接している。また、困っているときはそっと話しかけプライバシーを損なわないよう心掛けている	時として本人の応答の状況や親しみを込めて愛称で呼びかける場合がありますが、名前にさん付けを基本とし、スピーチロックについても確認しています。トイレでの着座時間が長い時などは膝掛けを用いています。個人記録類は保管場所を取り決め管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望が叶えられるように促したり、判り易く二者択一にしたり工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	横になりたいと訴えられた際は、無理せず体を休めていただいたり、起床、就寝時間や食事などご本人のペースに合わせて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣替え、身だしなみの整え、化粧水や乳液を使用し、髭を剃るなどができるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり、みそ汁を作ったり、コメとぎ、食器拭きなど和気あいあいに談笑しながら後片づけまで取り組むことができている。うどん、おはぎ、クッキーなども一緒に作った	各ユニット毎に献立され品数や栄養バランス、彩り、味付けの良い食事が提供されています。季節行事食は元より、サバ定食・チキン南蛮定食などの選択が可能であったり、カレーでは野菜・唐揚げなどのセレクトトッピング、うどん・寿司店風のハード面での演出や手作りおやつなど食への取り組みが多彩です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、残飯量、水分量などを把握して、栄養や水分が不足している場合は夜間帯で補うように業務を引き継いでいる。食事中は一人一人の状態を見て、食べやすい大きさにカットしたり、体調が悪そうなどときにはお粥にして提供したり、臨機応変に対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後、毎食後、就寝時に口腔ケア(舌磨きも)の声掛けを行い、取り切れていない汚れについてはスタッフが介助している。義歯のない方には口内洗浄液を使用して清潔を保っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握して、その方に合った声掛けやパンツ、パットを使用することで、時間を見てトイレ誘導することができ、気持ちよく排泄して頂けるように支援している(現在も布パンツで生活している方もいらっしゃいます)	排泄チェック表に全員分の状況を記録しアセスメントを行っています。個々の状況に応じた対応によりトイレ排泄を維持し、衛生用品類の使用も根拠を明確にしています。入居年数が経過しつつも尿意便意の意識が保たれ布下着を着用している利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつの際に乳製品を提供したり、便秘対策食品(とろろ、キムチ、納豆など)を提供している。また、歩行運動や体操を取り入れ気分の良い1日が過ごせるよう支援している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週3回の入浴を基本としているが、ご本人の体調不良等で適時調整している。尚、夜間入浴は行っていない	利用者1人が週に3回、月・水・金曜日、午前中入浴の設定ですがその都度柔軟に変更して支援しています。車椅子の方も安心して入浴できる対応がとられています。スムーズに浴室へ移動できるように入浴への声かけや話題を工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息する方、しない方、居室でTVを見ながらゆっくりされる方など、様々な形態にあるが、その日の体調や表情などを見ながら足を上げるようにクッションを利用して頂くなど促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方日は前回と今回の処方せんを見比べながら、薬剤名、投薬量、利用者名を複数の職員で確認し合う。薬の保管は入居者別に区分されていて一目で判り易いようにしている。服薬時は別の職員、ご本人にも確認頂き、誤薬防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人が得意としていることをできるだけ行っていたり、たくさん食事作り、片付け、掃除などを役割分担している。ご本人にとっては気分転換にもなっている様子。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族を交えて花見や水族館へ外出していたが、コロナ禍で中断しているため、施設内で飾り付けして花見や紅葉狩りの雰囲気味わっていただいた。ご家族へはその時の写真をお送りして報告した	昨年度は三笠鉄道村や長沼カフェ、水族館、あやめ公園などに出かけました。今年度はこれら外出支援が自粛となりましたが、広い敷地内の散歩や畑作業、テラスを活用したお茶会やラジオ体操、施設内で外出気分や季節感を味わう楽しみ事が多数行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出ができない状況であるため、金銭を支援する場面はほとんどないが、施設にあるコイン式電話を活用できる硬貨を所持いただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話があるので、好きな時に連絡できるように努めている。ケアプランはコロナ対策もあって手紙にてやり取りしており、説明が必要な場合は家族と電話で行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日によって照明の調整ができ、温度計を設置し常に温度が変更できるようになっている。季節に応じた掲示物を作り、明るい空間作りを心掛けている	明るい玄関、広いロビー、各ユニット其々が開放的でゆとりある空間です。リビングダイニングコーナーとソファコーナー、和の空間があり、ユニット間は行き来がしやすい造りです。季節毎の設えや利用者の作品類、メダカの水槽があるなどおおいある共用空間です。床冷暖房設備で温度管理がなされ、加湿器付空気清浄機を設置しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとり一人個室になっており、休んだりすることができる。レクなどで集まるときはホールやロビーを使い、ソファやテーブルなどを設置することで、何時でも利用できるように開放している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔使用していた家財道具や使い慣れた馴染みの物(化粧品、クシ、シェーバーなど)が変わらず使い続けられるようにしている	居室入り口には氏名と写真を表示し其々デザイン等を違えた暖簾がかけられています。居室には介護用ベッド、押入れ、テレビ台が備え付けられ、箆笥や鏡台、椅子やテーブル、仏壇などが持ち込まれています。書き物や編み物、小箱作りなど自室で趣味事もできる環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋にひとり一人に合った手すりを設置したり、場所が判り易いようにそれぞれ案内板を設置している。台所や浴室など全てバリアフリーになっているため入居者さんがモップ掛けなど手伝って頂けている		